

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年11月12日
【四半期会計期間】	第73期第1四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	澁谷工業株式会社
【英訳名】	SHIBUYA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 澁谷 弘利
【本店の所在の場所】	石川県金沢市大豆田本町甲58番地
【電話番号】	(076) 262 - 1201 (代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役経理本部長 吉道 義明
【最寄りの連絡場所】	石川県金沢市大豆田本町甲58番地
【電話番号】	(076) 262 - 1201 (代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役経理本部長 吉道 義明
【縦覧に供する場所】	株式会社 東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社 名古屋証券取引所 (愛知県名古屋市中区栄3丁目8番20号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第72期 第1四半期 連結累計期間	第73期 第1四半期 連結累計期間	第72期
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2019年7月1日 至 2020年6月30日
売上高 (百万円)	21,261	16,110	103,619
経常利益 (百万円)	1,076	328	9,560
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	694	151	6,471
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	677	298	6,485
純資産額 (百万円)	63,708	68,153	68,684
総資産額 (百万円)	125,471	121,095	126,745
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	25.11	5.48	233.89
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	50.8	56.3	54.2

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
 また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ56億50百万円減少し、1,210億95百万円となりました。有利子負債については、前連結会計年度末に比べ3億23百万円減少し、46億65百万円となりました。純資産については、前連結会計年度末に比べ5億31百万円減少し681億53百万円となり、自己資本比率は56.3%となりました。

経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により厳しい状況が続いているなか、一部で持ち直しの動きが見られるものの、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は161億10百万円（前年同期比24.2%減）、営業利益は3億25百万円（前年同期比68.2%減）、経常利益は3億28百万円（前年同期比69.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億51百万円（前年同期比78.2%減）となりました。なお、当社グループの主力事業であるパッケージングプラント事業は受注生産型であり、当連結会計年度の業績に与える新型コロナウイルス感染拡大の影響は、比較的軽微に留まっております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[セグメント別の売上高]

(単位：百万円)

セグメントの名称	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	対前年同期比
			%
パッケージングプラント事業	11,609	9,329	19.6
（酒類用プラント）	(985)	(506)	(48.6)
（食品用プラント）	(7,598)	(6,065)	(20.2)
（薬品・化粧品用プラント）	(2,585)	(2,300)	(11.0)
（その他）	(439)	(456)	(+4.0)
メカトロシステム事業	5,400	4,824	10.7
農業用設備事業	4,251	1,955	54.0
合 計	21,261	16,110	24.2

(パッケージングプラント事業)

パッケージングプラント事業の売上高は、食品用プラントは飲料用無菌充填ラインの納入が減少し、また薬品・化粧品用プラントはバイアルなどの充填ラインの納入が減少したことから、前年同期に比べ減少しました。

その結果、売上高は93億29百万円（前年同期比19.6%減）、営業利益は10億62百万円（前年同期比6.8%減）となりました。

(メカトロシステム事業)

メカトロシステム事業の売上高は、半導体製造装置は国内外とも市況が回復に向かっており、特に中国向けが増加したものの、医療機器は新型コロナウイルス感染拡大の影響で人工透析装置の需要落ち込みが続き減少したことから、前年同期に比べ減少しました。

その結果、売上高は48億24百万円（前年同期比10.7%減）、営業損失は2億70百万円（前年同期は営業損失2億8百万円）となりました。

(農業用設備事業)

農業用設備事業の売上高は、落葉果樹類向け選果選別プラントの納入が増加したものの、柑橘類向けおよび蔬菜類向け選果選別プラントの納入が大きく減少したことから、前年同期に比べ大幅に減少しました。

その結果、売上高は19億55百万円(前年同期比54.0%減)、営業利益は52百万円(前年同期比92.2%減)となりました。

(2) 優先的に対処すべき事業上および財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題に重要な変更はありません。

(3) 財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第1四半期連結累計期間において、財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針に重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、4億41百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	110,000,000
計	110,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	28,149,877	28,149,877	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	28,149,877	28,149,877	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	28,149	-	11,392	-	9,842

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないため、直前の基準日(2020年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 482,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,646,200	276,462	-
単元未満株式	普通株式 21,377	-	-
発行済株式総数	28,149,877	-	-
総株主の議決権	-	276,462	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式49株が含まれております。

【自己株式等】

2020年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 澁谷工業株式会社	金沢市大豆田本町甲58番地	482,300	-	482,300	1.71
計	-	482,300	-	482,300	1.71

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）および第1四半期連結累計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,829	22,795
受取手形及び売掛金	31,740	25,994
電子記録債権	7,210	7,024
製品	359	498
仕掛品	12,013	16,228
原材料及び貯蔵品	3,019	3,136
その他	2,783	2,559
貸倒引当金	80	80
流動資産合計	83,875	78,157
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,687	18,489
機械装置及び運搬具(純額)	2,562	2,491
土地	11,589	11,589
建設仮勘定	587	561
その他(純額)	1,189	1,221
有形固定資産合計	34,616	34,353
無形固定資産		
のれん	215	181
その他	358	351
無形固定資産合計	574	533
投資その他の資産		
投資有価証券	3,046	3,234
退職給付に係る資産	2,566	2,580
繰延税金資産	1,362	1,529
その他	733	737
貸倒引当金	30	30
投資その他の資産合計	7,678	8,050
固定資産合計	42,870	42,937
資産合計	126,745	121,095

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,547	21,935
電子記録債務	1,874	1,707
短期借入金	1,348	1,340
未払法人税等	1,408	316
未払費用	6,141	3,340
前受金	8,679	10,537
賞与引当金	407	1,521
受注損失引当金	178	117
製品保証引当金	54	54
その他	2,454	1,405
流動負債合計	47,096	42,276
固定負債		
長期借入金	3,640	3,324
退職給付に係る負債	6,712	6,741
役員退職慰労引当金	338	347
繰延税金負債	106	89
その他	167	161
固定負債合計	10,964	10,665
負債合計	58,061	52,941
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,392	11,392
資本剰余金	10,357	10,358
利益剰余金	48,770	48,092
自己株式	438	438
株主資本合計	70,082	69,403
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	413	282
為替換算調整勘定	37	61
退職給付に係る調整累計額	963	920
その他の包括利益累計額合計	1,414	1,265
非支配株主持分	17	14
純資産合計	68,684	68,153
負債純資産合計	126,745	121,095

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
売上高	21,261	16,110
売上原価	17,632	13,391
売上総利益	3,629	2,718
販売費及び一般管理費	2,603	2,392
営業利益	1,026	325
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	1	0
スクラップ売却益	4	4
持分法による投資利益	1	-
受取賠償金	10	22
その他	43	8
営業外収益合計	63	38
営業外費用		
支払利息	9	8
租税公課	2	1
為替差損	-	25
その他	1	1
営業外費用合計	13	36
経常利益	1,076	328
特別利益		
固定資産売却益	1	1
特別利益合計	1	1
特別損失		
固定資産処分損	7	1
その他	0	3
特別損失合計	8	4
税金等調整前四半期純利益	1,068	325
法人税、住民税及び事業税	583	435
法人税等調整額	208	259
法人税等合計	375	175
四半期純利益	693	149
非支配株主に帰属する四半期純損失()	1	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	694	151

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	693	149
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	52	130
繰延ヘッジ損益	8	-
為替換算調整勘定	4	24
退職給付に係る調整額	49	42
その他の包括利益合計	16	149
四半期包括利益	677	298
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	678	301
非支配株主に係る四半期包括利益	1	2

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について、重要な変更はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
減価償却費	531百万円	574百万円
のれん償却額	45	34

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年9月26日 定時株主総会	普通株式	830	30	2019年6月30日	2019年9月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年9月24日 定時株主総会	普通株式	830	30	2020年6月30日	2020年9月25日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	パッケージ ングプラ ント事業	メカトロ システム 事業	農業用設備 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,609	5,400	4,251	21,261	-	21,261
セグメント間の内部売上高 又は振替高	74	168	172	415	415	-
計	11,683	5,568	4,424	21,677	415	21,261
セグメント利益又は損失()	1,140	208	678	1,610	584	1,026

(注)1.セグメント利益又は損失()の調整額 584百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用
 599百万円および棚卸資産等の調整額14百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属し
 ない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	パッケージ ングプラ ント事業	メカトロ システム 事業	農業用設備 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,329	4,824	1,955	16,110	-	16,110
セグメント間の内部売上高 又は振替高	212	108	39	360	360	-
計	9,541	4,933	1,995	16,470	360	16,110
セグメント利益又は損失()	1,062	270	52	844	518	325

(注)1.セグメント利益又は損失()の調整額 518百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用
 505百万円および棚卸資産等の調整額 13百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属
 しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益	25円11銭	5円48銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	694	151
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	694	151
普通株式の期中平均株式数(千株)	27,667	27,667
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載して
 おりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月10日

澁谷工業株式会社

取締役会 御中

仰星監査法人

北陸事務所

指定社員 公認会計士 向山典佐
業務執行社員

指定社員 公認会計士 中山孝一
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている澁谷工業株式会社の2020年7月1日から2021年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、澁谷工業株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていない。